荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -
地域医療連携だより
小岱
市民を愛する　市民に愛される　病院へ
第31号（平成27年8月発行）
〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
TEL　0968-63-1115（代表）（内線536）
FAX　0968-62-4543
ホームページアドレス　www.hospital.arao.kumamoto.jp/
メールアドレス　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

怖い食中毒、夏は要注意

管理栄養士　西原敦子

暑さが続きますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今回は食中毒の予防について説明します。

食中毒を引き起こす主な原因は「細菌」と「ウィルス」です。細菌は温度や湿度などの条件がそろうと食べ物の中で増殖し、その食べ物を食べる事により食中毒を引き起こします。一方ウィルスは自ら増殖しませんが、食べ物を通じて体内に入ると、腸管内で増殖し、食中毒を引き起こします。

細菌が原因となる食中毒は夏場に多く発生します。代表的なものは腸管出血性大腸菌（O157、O111など）やカンピロバクター、サルモネラ菌などです。細菌の多くは湿気を好むため、気温が高くなり始め、湿度も高くなる梅雨時に食中毒が起こりやすくなります。

一方代表的なウィルスであるノロウィルスは、調理者から食品を介して感染する場合が多く、他に二枚貝に潜んでいることもあります。冬はノロウィルスによる食中毒が毎年多く発生しています。

食中毒というと、レストランや旅館などでの食事が原因と思われがちですが、毎日食べている家庭での食事によるものが一番多く発生しています。

食中毒を防ぐためにまず気をつけたいことは手を洗うことです。きれいに見えていても手にはたくさんの雑菌がついています。帰宅後や調理前、肉や魚をさわった後には、薬用石鹸で手を洗いましょう。

またキッチンは整理整頓し、きれいに保ちましょう。包丁、食器、調理器具、まな板、ふきん、たわし、スポンジなどは使用後すぐに洗剤と流水でよく洗いましょう。調理する時の注意としては、生で食べる野菜は流水でよく洗い、まな板は肉や魚用と、加熱せずそのまま食べる野菜・果物用の2枚を使い分ける。調理器具、まな板はひとつの食材を使用する毎に熱湯をかけ殺菌するとさらに効果的です。

調理の順番としては、生ものや和え物からはじめ、魚・肉・卵の料理とし、中まで十分火がとおるまでしっかり加熱しましょう。調理後は早めに食べ、残りは必ず冷蔵庫で保管しましょう。ただし、「冷蔵庫の過信は禁物」です。冷蔵庫の中も整理整頓し、清潔に保つことも大切です。

MERS患者搬送訓練の実施

感染管理認定看護師　船原初美

8月3日に中東呼吸器症候群（MERS）対策に関わる患者搬送訓練を有明保健所、有明広域行政事務組合消防本部と共に実施しました。

荒尾市民病院は、第2種感染症指定医療機関です。第2種感染症指定医療機関とは、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症の患者の入院を担当させる医療機関として都道府県知事が指定した医療機関のことを言います。二類感染症は、結核、急性灰白髄炎、ジフテリア、鳥インフルエンザ（H5 N1）（H7N9）、SARS、MERSがあります。

今回、韓国でのMERSの流行を受けて、MERSが疑われる患者が有明保健所管内で発生したと想定し、保健所職員が患者を当院に搬送し、診察後入院するまでの訓練を実施しました。

訓練の実施までは、有明保健所と打ちあわせを行い、訓練内容、搬送経路の確認を行いました。また、保健所の計画、スケジュールから当院のタイムテーブルを考え、関係各部署の役割決め、連絡調整を行いました。

訓練当日は、とても暑く、防護具を着用しての訓練は暑さとの戦いでした。しかし、実際に感染症は暑い夏に起こる可能性もあり、暑さや熱中症対策も課題だということがわかりました。また、訓練当日は県庁から、感染症患者の発生時に搬送に使用するアイソレーターを持参していただき、どのような物かを見て、触れて体験する事が出来ました。

今回、訓練を行った事により、感染症が疑われる患者が発生した場合の当院の課題が見えてきたように思います。患者搬送経路やスタッフの招集、防護具の選択、範囲など検討するべき点がたくさんあります。

現在、韓国ではMERSは終息にむかっています。しかし、感染症はいつ、どこで発生するかわかりません。訓練では、予定が決まっており、スケジュール通りに進みました。しかし、実際の場面では、突発的な場面がほとんどでこのようにスムーズにいく事はないと思います。今回の課題を踏まえ、今後も訓練を行い、感染症患者が発生したときに、速やかに、安全に対応できるようにしていきたいと考えます。

認定看護師通信

新たな認定看護師が誕生し、

７分野７人になりました！！

分　野	氏　名
慢性心不全看護	岩川　美子
緩和ケア	松山　美保
皮膚・排泄ケア	松北　直美
救急看護	下村　雅美
脳卒中リハビリテーション看護	寺本　清美
感染管理	船原　初美
がん化学療法看護	森田　茂美

慢性心不全看護認定看護師　岩川　美子

慢性心不全看護認定看護師とは、２０１２年から認定が開始された、まだまだ新しい分野です。今ひとつ、何をする人なのかイメージができないかもしれません。そこで、みなさんに私の存在を知って頂きたいので、少しだけ紹介をさせてください。

【慢性心不全看護認定看護師の役割】

＊安定期・増悪期・終末期の各病期に応じた生活調整及びセルフケア支援

＊心不全増悪因子の評価及びモニタリング　　など

現在は、病棟・心臓リハビリテーション室において、慢性心不全看護の実践を通して、病棟スタッフへの役割モデルを示せるように、日々頑張っているところです。心不全に関する事など、どんな些細な事でも、遠慮せずにどんどん、声をかけてください。

はじめまして！！
よろしくお願いします。

がん相談支援センターの紹介

本院は平成20年2月8日付で、「緩和医療」「セカンドオピニオン等の医療相談体制」「がん登録等の情報提供体制」等が評価され、「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。地域がん診療連携拠点病院は、全国どこにお住まいの方でも質の高いがんの医療が受けられるように厚生労働省が指定した施設です。

平成26年度より「がん相談支援センター」として活動を開始しました。場所は、正面玄関横にあります相談支援センターと同部署にあり、患者さんや家族、地域の方々、医療機関などにがんに関する情報を提供し、今後の療養や生活の事などの相談にお答えしています。

がん相談支援センターでは、緩和ケアCNやがん専門相談員が対応できる体制を整えています。メンバーは、緩和ケア内科部長　濵口医師、緩和ケアCN　松山室長、PSW宮本、PSW嶋田の4名体制です。

主な相談内容の例・・・

・「がんと診断されたけど、どうすればいいのかわからない」
・「医師に言われた事の意味がよくわかりません」
・「他で治療法がないと言われた」
・「治療費がかかってしょうがない。支援の仕組みを知りたい」 など
がんについて知りたい、どこで相談していいかわからないといった疑問や悩みの相談をお受けしています。

編　集　後　記

この夏、荒尾市の万田坑と専用鉄道敷跡を含む「明治日本の産業革命遺産」がユネスコ世界遺産に登録されました。荒尾市にとっては荒尾干潟のラムサール条約登録と並んで2つ目の町の自慢になりますね。地元の文化遺産が人類共通の遺産として認定されたことはとても誇らしいです。なぜか自分がほめられたような気持ちになります。

是非この遺産を保存し、学んで行きましょう。施設見学もできるみたいなので、行ってみようと思います。

相談支援センター　渡邉　弘隆

《病院理念》

荒尾市民病院は地域住民の健康の維持増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。

《基本方針》

1. 地域の信頼に応える基幹病院として、最善の医療を提供します。
2. 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、温かい心を持った医療人を育成します。
4. 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します

《患者様の権利》

・あなたは、あなたの病気について必要な医療を受けることができます。
・あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択することができます。
・あなたは、医療の内容についてご自分の希望を申し出る事ができます。